

第2章 目指すべき方向と具体的な目標

第1節 モノづくりなど産業の国際競争力の強化

1. 目指すべき方向の視点

(1)モノづくり中部における産業の空洞化対策の必要性

中部地方ではこれまで、高い技術力に裏付けられた品質の高い工業製品が数多く作り出され、日本のモノづくりの中心地としての地位を築いてきました。今日では、その市場は全世界に広がり、世界に名だたる企業も数多く、世界レベルで見ても有数のモノづくり拠点と呼べる状況にあります。こうした中部地方の製造業は、高度経済成長期以降の日本経済の発展を支えてきたと言えます。

しかし、世界に目を向ければ、急速な勢いで成長する中国経済に代表されるように、アジア諸国の市場が開花しつつあり、我が国企業の生産拠点がこうした海外に移転する例が増加しています。中部地方に根ざす企業の多くも、生産拠点のグローバル化を進めており、この結果、中部における産業の空洞化が進展するのではないかとの懸念が広がっています。

経済のグローバル化は今後も進展し続けると見込まれる中、中部地方が今後も力強い地域経済の発展を遂げていくためには、当地が有するモノづくり技術のストックを活用するとともに、IT、ロボット、環境、バイオ、ナノテクノロジーなど21世紀型産業との連携による付加価値の高い生産拠点の形成及び技術開発拠点の形成を図っていく必要があります。つまり、水平分業¹が進んだ場合でも、国内外のモノづくりにおいて中部地方が担うべき役割が確立されていくよう努めていくことが重要課題と言えます。

(2)産業の国際競争力強化の必要性

中部地方の産業が付加価値の高い生産活動を行うことで、世界におけるモノづくり拠点の優位性がさらに高められ、その結果、中部地方に集積する技術等に着目して世界から優れた企業が集まり切磋琢磨する環境が生まれる状況が国際競争力の高い地域の姿であると考えられます。

こうした国際競争力のある産業集積地として発展していくためには、国際物流・交流拠点の機能整備・充実を図るとともに、こうした拠点へのアクセス性を高め、更には物流のスピードアップやコスト低減を図る工夫を重ね、円滑な物流・人流を支えるネットワークを整備していく必要があります。また、エネルギー供給や水資源の確保なども、その安定性を高めていくなど、総合的な社会資本の充実を図っていかねばなりません。更には、特区制度の活用等により、成長性の高い産業コンプレックスの形成を図るなど、ハード・ソフト両輪の取り組みを、地域をあげて官民協調のもとに進めていく必要があります。

¹ 水平分業：各国の生産コストや技術力等の違いを踏まえ、所与の事業を、より最適な形で各国に分配して行う事業運営の仕方。

2.わたしたちの目指す地域像

- ・世界をリードする技術開発に魅せられて国際的な企業が立地をあこがれる地域
- ・世界的なブランドの製品が生産され、世界のモノづくりを結ぶ物流拠点となる地域

【地域の声】

- ・ 中部の産業の活性化のために、中部ブランドを世界に情報発信することが重要。(まんなか懇談会)
- ・ モノづくりの強化には、世界中から情報やアイデアを集める都市づくりや知的な環境づくり、他地域や世界から先端産業の研究開発や生産拠点を呼び込んだ産業クラスターの形成が必要。(まんなか懇談会)

3.地域像を実現するための具体的な目標

目標1 国内外物流の経済性・確実性を向上します

(目標)

国際港湾や国際幹線航路、国際空港の重点的な整備を行うことにより、物流のスピードアップや確実性の向上、コスト低減など国際水準の物流サービスを実現します。

【地域の声】

- ・ 国際競争力のある空港・港湾の整備、国際ハブ空港として通用する空港整備を。(まんなか懇談会)
- ・ 有力な国際路線を確保し、空港の国際競争力を高めることが必要。(ビジョン討論会名古屋会場)
- ・ 港湾機能の強化、大水深コンテナバースの整備を。(市町村長ヒアリング)
- ・ 空港、港湾などの物流機能の強化と利用における費用の低減を。(企業ヒアリング)

【具体的な施策および主要事業例】

- ・ コンテナ貨物の増加や船舶の大型化に対応し港湾の国際競争力を強化するため、国際水準の国際海上コンテナターミナルを整備します。特に、名古屋港については、アジア主要港を凌ぐ港湾サービスを提供するスーパー中核港湾としての育成を目指します。
- ・ 成田、関西両国際空港と並ぶ我が国における国際拠点空港として、中部国際空港を整備するとともに、「フライ・ナゴヤ」キャンペーン¹などにより、国際路線網を充実させます。
- ・ 米国同時多発テロを契機に改正された海上人命安全条約(SOLAS条約)に対応し、中部地域の輸出入貨物を円滑かつ安全に輸送するため、港湾の保安対策を推進します。
- ・ 重要な港湾において、多様な荷姿の貨物を取り扱うことができるターミナル(多目的国際ターミナル)を整備します。(三河港 等)
- ・ 伊勢湾、三河湾の湾口部における海上交通のボトルネック²の解消を図るために、中山水道航路を整備するとともに、伊良湖水道航路の整備について検討します。
- ・ 橋梁の補強などにより、車両の大型化に対応した道路を整備します。
- ・ 国内における物流機能の高度化や物流コストの低減のため、道路一体型広域物流拠点を整備します。

¹ 「フライ・ナゴヤ」キャンペーン：航空路線誘致・増便を目指して地元空港の旅客、貨物の需要を喚起し、空港利用促進を図る取り組み。

² ボトルネック：[bottleneck]円滑な流れの妨げ。ネック。

目標2 港湾・空港までのアクセス時間を短縮します

(目標)

国際海上コンテナターミナルや中部国際空港の整備に対応し、それらの拠点と陸上輸送の接続の円滑化を図ります。

人の流れについても、各都市から空港・港湾への道路・鉄道整備や海上アクセスの整備を行い、交通機関の連携を強化することで利便性の高いアクセスを実現します。

[地域の声]

- ・ 空港のアクセスを徹底的に良くするべき。(まんなか懇談会)
- ・ 中部国際空港や名古屋港等へのアクセスの向上が重要。(ビジョン討論会名古屋会場)

[具体的な施策および主要事業例]

- ・ 港湾、空港と背後幹線道路との接続性の向上を図るとともに、背後地域への効率的な広域道路ネットワークを構築し、円滑な物流の促進を図るための事業を推進します。(四日市港臨港道路 等)
- ・ 港湾・空港と各都市とのアクセス性を向上し、円滑な交流の促進を図るため、道路、鉄道、海上アクセス拠点の整備を推進します。
- ・ ITSの整備により円滑な移動に役立つ情報を提供します。

目標3 港湾・空港での貨物引き取りまでの時間(リードタイム)を短縮します

(目標)

港湾・空港において、IT技術の活用により輸出入を行う際に必要となる手続の簡素化・効率化を推進し、物流のリードタイムを短縮します。

[地域の声]

- ・ 物流はスピードが非常に重要な問題。(ビジョン討論会豊橋会場)
- ・ アクセスの良い輸送システムでなければ産業経済は伸びない。(まんなか懇談会)
- ・ 道路と一体になった港湾の整備を。(まんなか懇談会)
- ・ 空港、港湾の道路網等周辺インフラの整備を(特に中部国際空港のアクセス整備)。(企業ヒアリング)

[具体的な施策および主要事業例]

- ・ 新総合物流施策大綱¹に基づき、情報化技術を活用した港湾関係諸手続の効率化を図るために、シングルウィンドウ・システム(主として行政手続きが対象)及び港湾物流情報プラットフォーム(主として民間の商取引が対象)を構築します。
- ・ 中部国際空港における物流の効率化等を推進します。
- ・ 名古屋港、中部国際空港における24時間フルオープン化を促進します。

¹ 新総合物流施策大綱：物流分野において、コストを含めて国際的に競争力のある水準の市場が構築されることを目標とし、環境負荷を低減させる物流体系の構築と循環型社会への貢献を目指して、平成13年7月6日に閣議決定されたもの。

目標4 企業が設備投資しやすい環境をつくります

(目標)

物流拠点や生産拠点から高規格幹線道路までのアクセス性を高めるとともに、安定した水供給を図ります。

特区制度の積極的な活用等により、産業活動に有利な環境を創造します。

臨海部に陸海空の交通結節性を活かしたロジスティクス拠点や、環境産業等新産業の集積を形成するため、再生整備を進めます。

新技術や新商品の情報を流通させます。また公共事業で新技術や新商品の積極的な活用を図ります。

[地域の声]

- ・ 手続や規制の制約をクリアし、企業の手足を縛らず、空洞化を回避し経済の活性化を。
(まんなか懇談会)
- ・ 規制緩和など、企業進出しやすい社会環境整備を。(企業ヒアリング)
- ・ 特区等による規制緩和を行い、集中して整備することで産業クラスターの形成を。(まんなか懇談会)
- ・ インフラ整備や規制緩和、優遇制度により企業にとって魅力ある地域とすべき。(ビジョン討論会四日市会場)
- ・ 中部は、東京や大阪に比べ土地、オフィス等の賃料が低い。そうした面をもっと推進するような動きが欲しい。(ビジョン討論会名古屋会場)

[具体的な施策および主要事業例]

- ・ 産業の集積や新規産業の創出等の推進を図るため、地域の特性に応じた特区制度(規制の特例を導入する特定の区域)を活用し、支援します。(四日市港 等)
- ・ 安定した水供給を図るため、工業用水、上水道用水等を確保します。(徳山ダム建設 等)
- ・ 大規模工業団地や研究学園都市などと高速道路IC間のアクセス強化を図ります。
- ・ 研究開発を行う拠点の整備を支援します。(なごやヒューマンサイエンスパーク事業 等)
- ・ e - J a p a n 重点計画¹に掲げる「世界最高水準の高度情報通信ネットワークの形成」を積極的に支援するために光ファイバー収容空間、管理用ケーブルの空間を活用し民間開放を推進します。

¹ e-Japan 重点計画：平成 13 年 1 月に決定された政府の国家戦略。超高速ネットワークや電子商取引、電子政府など IT を積極的に活用していくための具体的な行動計画。平成 14 年 6 月には e-Japan 重点計画-2002 が策定された。

【当面取り組む主要なプロジェクト】

名古屋港国際競争力強化プロジェクト

(目標 1、2、3 の達成を目指して)

中部地域を代表する名古屋港において、四日市港との連携を図りつつ、アジア主要港を凌ぐ港湾サービスを提供するスーパー中樞港湾¹の育成を目指し、大水深コンテナターミナルの整備や航路整備、背後地域とのアクセス性の向上を図るための道路整備、港湾諸手続のIT化などハード、ソフト一体となった物流効率化の取り組みによって、物流コストの低減や所要時間の短縮を図ります。
また、港湾のセキュリティ充実に図るため、保安対策を推進します。

<アウトカム指標² (参考例)>

- ・ 物流コストを約3割削減、リードタイムを1日程度に短縮
- ・ 国際海上コンテナ基幹航路数の充実
- ・ 渋滞損失時間・損失金額の低減 等

中部国際空港国際競争力強化プロジェクト

(目標 1、2、3 の達成を目指して)

成田、関西両国際空港と並ぶ我が国における国際拠点空港として、中部国際空港を整備するとともに、空港への円滑なアクセスを確保するため、道路、鉄道、海上アクセス拠点の整備を行い、利用者の利便性向上、物流の効率化を図ります。

<アウトカム指標 (参考例)>

- ・ 各拠点都市から中部国際空港へのアクセス時間を短縮
- ・ 国際航空就航路線数・便数の増加
- ・ 中部地方発着の航空貨物量(額)に対する中部国際空港の利用率の向上 等

四日市等特区制度を活用した産業活性化支援プロジェクト

(目標 4 の達成を目指して)

特区制度(規制の特例を導入する特定の区域)等を活用し、四日市港・名古屋港・三河港・清水港・中部国際空港等において産業の集積や新規産業の創出を支援、および岐阜県南部の木曾三川地域や静岡県東部の富士山麓等において先端技術産業集積地域の形成を支援するなど、各地域の特性に応じた産業活性化を支援する社会資本の整備を行います。

<アウトカム指標 (参考例)>

- ・ 新規企業の開業率の向上
- ・ 工場用地の入居率の向上
- ・ 製造品出荷額等の増加 等

¹ スーパー中樞港湾：我が国のコンテナ物流においてコスト・サービスを向上させるための先導的・実験的な試みを官民が一体となって推進する「場づくり」として国が指定するもの。

² アウトカム指標：「その事業が完成することによって、国民生活がどのようによくなるのか」といったように、事業をおこなったことによってもたらされる成果や効果を「アウトカム」という。